

# 「次期相模原市総合計画推進プログラム」策定に向けた 意見募集の実施結果について

## 1 概要

本市は、「未来へつなぐ さがみはらプラン 相模原市総合計画」基本計画を戦略的かつ効率的に推進するため、「相模原市総合計画推進プログラム（以下「推進プログラム」という。）」を令和5年3月に策定しました。

推進プログラムは、社会経済情勢の変化等に対応するため、毎年度更新することとされていますが、更新に当たっての市民意見の反映のため、パブリックコメントに準じた意見募集を行いました。その結果、24人の方から49件のご意見をいただきましたので、市の対応状況や考え方について、次のとおり公表します。

※ご意見の対象取組ごとに細分化して市の考え方を示しているため、実際の意見数よりも多くの件数（110件）となっています。

## 2 意見募集の概要

- ・ 募集期間 令和5年4月15日（土）～令和5年5月31日（水）
- ・ 募集方法 直接持参、郵送、ファクス、電子メール、Logo フォーム
- ・ 周知方法 市ホームページ、市SNS、広報さがみはら、窓口への配架 など

※ 資料の配架場所

政策課、各行政資料コーナー、各まちづくりセンター（城山、橋本、本庁6地区まちづくりセンター、大野南を除く）、各出張所、各公民館（沢井公民館を除く）、各図書館、公文書館

## 3 結果

### （1）意見の提出方法

意見数		24人（49件）
内 訳	直接持参	1人（26件）
	郵送	人（件）
	ファクス	人（件）
	電子メール	人（件）
	Logo フォーム	23人（23件）

## (2) 意見に対する本市の考え方の区分

ア：推進プログラム（令和6年度～8年度）に意見を反映したもの

イ：今後の参考とするもの

ウ：その他（今回の意見募集の趣旨・範囲と異なる意見など）

## (3) 件数と本市の考え方の区分

項目	件数	市の考え方の区分		
		ア	イ	ウ
① 重点テーマ「少子化対策」に関すること	5	2	3	0
② 重点テーマ「雇用促進対策」に関すること	4	4	0	0
③ 重点テーマ「中山間地域対策」に関すること	8	4	4	0
④ 目指すまちの姿Ⅰ「夢と希望を持って成長できるまち」に関すること	34	4	29	1
⑤ 目指すまちの姿Ⅱ「笑顔で健やかに暮らせるまち」に関すること	14	10	4	0
⑥ 目指すまちの姿Ⅲ「安全で安心な暮らし暮らしやすいまち」に関すること	3	2	1	0
⑦ 目指すまちの姿Ⅳ「活力が交流と新たな価値や魅力を創造するまち」に関すること	27	8	18	1
⑧ 目指すまちの姿Ⅴ「人と自然が共生するまち」に関すること	11	7	4	0
⑨ 目指すまちの姿Ⅵ「多様な主体との連携・協働により持続的に発展するまち」に関すること	4	1	3	0
合 計	110	42	66	2

#### (4) 意見の内容及びご意見に対する本市の考え方

※区分が「ア」としたものは、推進プログラム（令和6年度～8年度）において意見を反映させた事業を記載しています（カッコ内は推進プログラム掲載ページ）。

#### 重点テーマ「少子化対策」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
1	<p>現在、2歳児の母です。毎月の保育料が高く、2人目を産むことを考えられません。東京都、兵庫県明石市などのように保育料第二子以降無料としてみてください、2人目も生みたいと思っています。</p> <p>また、現在非正規での就労のため妊娠・出産後は継続した手当がありません。それも一つの要因です。相模原市は未来ある都市だと思いますので、どうか少子化対策、子育てに力を入れて頂けないでしょうか。</p>	<p>「該当する取組」もしくは「市の考え方」</p> <p>保育料減免について、市独自の軽減措置を実施しておりますが、さらなる拡大については、財政負担が大きく、自治体単位では実現が困難な状況です。</p> <p>このため、国に対して、少子化対策として減免制度を統一的に拡大するよう、要望しています。</p>	イ
2	<p>若い世代の結婚を増やさなければ子どもも生まれないので、経済面を豊かにして欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援・職業紹介事業（P58）</li> <li>・市就職支援センターにおける分野横断的な支援（P13）</li> <li>・ハローワークとの連携強化（P13）</li> <li>・学生・新卒未就職者等就労支援事業（P13）</li> <li>・起業家創出事業（P13）</li> <li>・イノベーション創出促進事業（P13）</li> <li>・若者無業者への職場体験機会提供（P13）</li> <li>・多様な働き方促進事業（P11、P13）</li> </ul>	ア
3	<p>仕事との両立のために、保育園へもっと入りやすくしてほしい。</p> <p>また、駅に子供を預けてそこから保育園に送り届けてくれるサービスも必要と考える。</p>	<p>保育需要の高い地域については、保育所を設置するなどの対応を図っています。</p> <p>また、送迎ステーションについては、児童の待機場所や安全にバスへ乗降できる場所の確保、送迎によるこどもの負担などの課題があると考えています。</p>	イ

4	<p>全天候型の遊び場は子供が小さい頃にあって欲しかったです。堺市のビックバンなどを参考になさってはいかがでしょうか？ビックバンはちょっと無駄な部分もあり人件費かかりそうなので、維持費を考えて作って欲しいです。公園プールは明石市、大和市を参考になさったらどうでしょうか。休みの日に市内で遊べる施設が欲しいです。</p>	<p>・子ども若者健全育成支援事業（P22）</p>	ア
5	<p>妊娠中の検診や1か月児検診を無料にして欲しいです。補助券などもありますが、足りないです。あとは、市内の子どもの遊び場が少ないと思うので増やして欲しいです。</p>	<p>妊産婦の健診は健康管理の点で重要であると認識しております。より利用しやすくなるよう、他自治体の実施状況等を注視しながら、課題を整理して参ります。</p> <p>また、遊び場につきましては、児童館やこどもセンター、公園など、子どもたちが伸び伸びと自由に遊んだり過ごしたりすることができる場所は重要であると考えていますので、引き続き、子どもの遊び場等の充実を図ってまいります。</p>	イ

## 重点テーマ「雇用促進対策」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
6	市内に働く場所が増えると市内での市民の移動やお金の動きも増えるので、企業を誘致して欲しい。	・工業集積促進事業（P13、P57）	ア
7	人手不足解消とロボット産業の進行を結びつけることができれば、産業振興と人手不足解消が同時に進化すると考える。また、生活基盤が十分かつ、「無駄な費用」が少ないこの街であれば、自動化が進む中での多様な雇用のあり方を実証することができると思う。	・中小企業研究開発支援事業（P13、P57）	ア
8	幅広い年齢層の人の雇用促進、就職決定実現のため、担当カウンセラーをつけて面接に同行が許可できれば合格率も上がり働く人材は増えると思う。	・就労支援・職業紹介事業（P58）	ア
9	障害者の家族や、介護等をしている家族は働く時間が制限されるため、フルタイムで働くことが難しい。そのため引き続きリモートワークの推進や、短時間労働を増やすような支援をしてほしい。	・多様な働き方促進事業（P13）	ア

## 重点テーマ「中山間地域対策」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
10	中山間地域において、核とまではいわれないがハブが不足しているように思える。観光にしても生活にしてもここに行けば良いという場所がない、特に生活基盤は橋本あるいは八王子頼みの現状がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力創出・交流拠点推進事業（P16）</li> <li>・中山間地域モデル地区推進事業（青根・小原）（P16）</li> </ul>	ア
11	橋本をハブとするならばスポークを今まで以上に強化しつつ、「橋本の目が津久井に向く」ことに注力しなくてはいけないし、新しいハブを設定するならばそれ相応の投資やそれを呼び込む指針が必要になる。閑散地域とは言い切れない地域であるだけに整備を期待したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力創出・発信事業（ブレッジャー推進事業）（P16）</li> <li>・中山間地域モデル地区推進事業（青根・小原）（P16）</li> </ul>	ア
12	中山間地域の課題は都市部からの税金を中山間地域で使うという形ですと、長期的には限界が来るため、森のイノベーションラボ FUJINO の活動なども含めて、地域でのイノベーションが発生し、事業によって解決できるような取組や独自の規制緩和などを行うチャレンジを優先的に行っていくべきと考えられます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森ラボ交流促進事業（P16）</li> <li>・緑区特設サイト中山間地域魅力発信事業（P16）</li> </ul>	ア
13	津久井エリアの観光資源を活かし、それらを持続可能なものにするには、交通インフラの整備が不可欠。コロナ禍で減便された路線バスの運行本数を元通り（できれば増便）させるため、バス会社に資金援助をする。この2点で新たな雇用創出になると思う。	中山間地域においては、採算性等の課題から撤退の申し出があったバス路線に対し、生活を支える交通手段として、公費により維持する取組や、交通不便地域等における高齢者などの移動制約者の生活交通手段を確保するため、乗合タクシー等を運行しています。引き続き、地域の実情に応じた移動手段の確保に向け取り組んでまいります。	イ

14	<p>リニア開業後に鳥屋車両基地までの回送線旅客化（中間駅）が必要。国交省や県にも支援を依頼する。リニア車両基地を東海道新幹線浜松工場のように定期的に一般公開・見学施設を設置すれば、新たな観光資源になる。</p>	<p>回送線の旅客線化は、周辺地域の活性化や本市の観光振興に繋がるものと認識していますが、リニア事業の進捗を踏まえ、神奈川県や周辺自治体との連携を図りながら、中長期的に粘り強く取り組んでいく必要があると考えています。</p> <p>また、車両基地は魅力的な観光資源であり、本市のPRにも繋がるものと考えられることから、車両基地見学の機会などを設けられるよう、地域の皆様の御意見を伺いながら、JR東海と調整しています。</p>	イ
15	<p>「道の駅」をつくる。</p>	<p>・魅力発信・交流拠点推進事業（P16）</p>	ア
16	<p>山と湖の眺望が楽しめる場所に、景観を損なわない低層の宿泊施設をつくる。</p>	<p>観光客の滞在時間延長に向けた、ホテル等の宿泊施設の誘致について検討していきます。</p>	イ
17	<p>中山間地域は過疎化が進んでおり、これは全国的に課題をされている。緑区山間部にも観光地が多くあるが、公共交通機関のアクセスが課題である。自動車やバイク、自転車だけでなく、鉄道で市に観光に来てもらうべく、旅行会社と連携し、市内の観光地を巡る日帰りバスツアーなどを企画するのも良さそうです。</p>	<p>公益社団法人相模原市観光協会が旅行会社等の民間事業者と連携した商品造成を担っていることから、市はさらなる推進に向けた支援に取り組んでまいります。</p>	イ

目指すまちの姿Ⅰ「夢と希望を持って成長できるまち」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
18	<p>子育てをしていくうえで文化施設が重要と考えます。</p> <p>また、公民館などの公的施設での活動をしやすくしてほしいです。</p>	<p>公民館では、子育て団体、子育て支援団体の活動を支援するため、使用料を免除しております。</p> <p>公民館が、学びを通じた「人づくり、つながりづくり、地域づくり」による地域コミュニティを支え、引き続き、子育て中の親子の交流と連携の核となるよう努めてまいります。</p>	イ
19	<p>図書館が遠く、子どもと気軽に歩いて通える距離ではない。今の住まいに引っ越す前は、1 km 程度離れた場所に図書館があり、よく本を借りていた。今は通いづらい距離にある為、本を借りることは無くなった。子ども達には本を通じて様々な経験や知識を得てほしいし、大人も様々な情報に触れやすい環境であるべき。小規模でも構わないので、図書館を増やしていただきたい。</p>	<p>本市では新たに図書館を設置する計画はございませんが、市民の皆様にとって身近な各地域の公民館等 25 箇所には図書室があり、図書館とはオンラインシステム及び配送網で結ばれ、どこの図書室でも市内図書館・図書室の蔵書をお受け取りいただけるサービスを提供しています。</p> <p>今後もさらに多くの市民の皆様にご利用いただけるよう、図書館と図書室の連携強化により蔵書の魅力向上を図るなど、図書館サービスの充実に努めてまいります。</p>	イ
20	<p>貧困家庭でも私立学校に行けるように補助金を出してほしい。</p>	<p>私立高等学校の授業料につきましては、国の「高等学校就学支援金」と合わせ、各都道府県で実施している独自制度により、一定の世帯年収まで実質的な無償化が行われています。</p> <p>そのため、本市では市民税所得割非課税世帯の高校生を対象に、授業料以外の学校教育費を支援する「給付型奨学金制度」を実施しています。</p>	イ
21	<p>産後うつ防止のためには自分の時間を持つことが大切であると思う。乳児期の一時保育を充実させてほしい。</p>	<p>産後うつ予防等の対策の一つとして、出産後間もない産婦等を対象とし、母親の身体的回復と心理的な安定を促進するとともに、母親自身のセルフケア能力を育み、母子とその家族が健やかな育児ができるよう、産後ケア事業を実施しております。令和6年4月から対象者の拡充や利用者負担額の軽減等を行い、支援の充実に努めてまいります。</p>	イ



22	<p>中学の給食はありがたいです。でも、小学校の給食がよかったと言われます。小学校のような給食は難しいでしょうか。</p>	<p>・学校給食推進事業（P24）</p>	ア
23	<p>小学校の朝旗振りが週に1回あったり、1年生の慣らし期間が長くすぐに帰ってきたり、母に働いて欲しいのか、子育てして欲しいのかどっちなのかと思いました。</p>	<p>旗振りを含む登下校時の見守り活動につきましては、地域や保護者の皆様のご協力を引き続きいただきながら実施するとともに、教育委員会としても担い手の確保に努めてまいります。</p> <p>また、小学校入学当初の1年生につきましては、学校のルールや新たな先生や友だちとの出会い、授業の受け方など、多くの新しい環境に慣れることが必要であることから、各学校において、1年生の授業時間や授業内容など、柔軟なカリキュラム編成を行うことで、学校生活に円滑に移行していくものと考えております。</p>	ウ
24	<p>母が心の病気の家の子供がいつもその辺をフラフラしていて、近くに子供が集まれる場所があればいいと思いました。キッズルームのあるマンションに頼らず行政で用意できたらいいと思います。</p>	<p>現在、市立児童クラブは68クラブ運営しています。引き続き、学校施設等の活用や民間児童クラブとも連携を図りながら、放課後の子どもの居場所の確保に努めてまいります。</p>	イ
25	<p>不妊治療にかかる費用の補助をするべきだと思います。産まない選択をした人よりも、産みたいと思っている人を支援した方が良くと思います。</p>	<p>国の不妊治療への保険適用の状況や、他自治体の治療に対する助成の実施状況などを注視して参ります。</p>	イ
26	<p>第3子から支給され、所得制限はあるものの大半の世帯が受給する家族手当</p>	<p>各種手当に関しては、一律の現金給付から、より一層効果的で具体的な支援に移行するため、市単独の現金給付は廃止・縮小をしてきております。</p> <p>このことから、新たな現金給付制度の創設は難しいものと考えます。</p>	イ
27	<p>子育て世代、特に3人以上の子育て世帯に対して、大幅な所得税減税を適用するN分N乗方式の導入。</p>	<p>所得税減税や年金加算等の国の制度につきましては、必要に応じて国に要望することなどを検討してまいります。</p>	イ

28	子育ての為に仕事を全面的に休むか、週4日や3日勤務、半日勤務などの時短労働を選択できる就労自由選択補足制度の導入。	・多様な働き方促進事業 (P13)	ア
29	育児で保育ママに子どもを預ける選択をした場合に支給される保育方法自由選択補足手当の導入。	各種手当に関しては、一律の現金給付から、より一層効果的で具体的な支援に移行するため、市単独の現金給付は廃止・縮小をしてきております。 このことから、新たな現金給付制度の創設は難しいものと考えます。	イ
30	妊娠後の参加の受診料、検診費、主産前診断、出産費用など妊娠出産から産後のリハビリテーションを含む費用の全面無料化。	安心して妊娠出産ができ、円滑に育児のスタートができるよう支援体制の整備を図って参ります。	イ
31	母親同様の有給扱いで育休を取る父親も賃金の80%を保障する。	育児休業給付金制度は国が所管しており、国の動向を注視してまいります。	イ
32	不妊治療を公費で実施(43歳まで)	国の不妊治療への保険適用の状況や、他自治体の治療に対する助成の実施状況などを注視して参ります。	イ
33	高校までの授業料無料、大学も少額の登録料のみ(私立は例外)、返済不要の奨学金制度の導入。	高等学校の授業料につきましては、国の「高等学校就学支援金」と合わせ、各都道府県で実施している独自制度により、私立学校も含めて一定の世帯年収まで実質的な無償化が行われています。そのため、本市では市民税所得割非課税世帯の高校生を対象に、授業料以外の学校教育費を支援する「給付型奨学金制度」を実施しています。 大学の授業料等につきましては、国の「高等教育の修学支援制度」がございますので、そちらをご活用ください。	イ
34	3歳まで育児を引き受ける認定保育ママから学童保育まで無料化。	保育料減免につきましては、市独自での軽減措置を実施しておりますが、さらなる拡大については、財政負担が大きく、自治体単位では実現が困難な状況です。 このため、国に対して、少子化対策として減免制度を統一的に拡大するよう、要望しております。 なお、学童保育(児童クラブ)の無料化については、現在検討していません。	イ

35	PACSで事実婚の社会保障への組み込み、非嫡出子という言葉の民放からの削除。	国の動向を注視してまいります。	イ
36	子どもを3人養育すると年金が10%加算される年金加算の導入。	所得税減税や年金加算等の国の制度につきましては、必要に応じて国に要望することなどを検討してまいります。	イ
37	子育てにかかる費用を無料にするべきです。	<p>公立小中学校への就学にあたり、経済的理由でお困りの方に対して学用品費等の義務教育に伴って必要となる学校教育費を援助する「就学奨励金制度」を実施しているほか、市民税所得割非課税世帯の高校生を対象に、授業料以外の学校教育費を支援する「給付型奨学金制度」を実施しています。</p> <p>また、子育て世代への支援は、大変重要なことだと認識しておりますが、学校給食費の無償化を継続して行っていくことは、本市の財政に与える影響が大きいため、引き続き、他の指定都市と連携し、国に対し、制度の創設及び財政措置について要望してまいります。</p> <p>経済的負担を考えながら、今後の子育て支援施策を検討してまいります。</p>	イ
38	地域の支援級で行う授業や環境などが先生の力量で決まるため、学校によって体制や取組がバラバラである。また学年が上がると先生が入れ替わり、支援の引継ぎが不足していて、子どもたちのスムーズな学びに繋がりにい。現場の先生方に任せきりではなく、ある程度のノウハウ共有や監修をしてくれる機関があるとよいと感じる。	<p>各学校では「個別の教育支援計画（Map）」を踏まえ、「個別の指導計画」を作成しており、乳児期から学校卒業までの一貫した支援計画を立て、児童生徒の教育的ニーズに合わせたきめ細かな支援を行っているところです。</p> <p>また、教育委員会では支援教育コーディネーターを対象とした研修や支援教育に係る専門的な知識を獲得できるスキルアップ研修等の実施により、ノウハウの共有と技術向上に努めています。</p>	イ

39	<p>不登校率が高く、オンライン型の教育がシェアを伸ばしている昨今。学校に集めての教育体制だけでなく、オンラインでの教育や、様々なオルタナティブ教育のあり方も公教育と連携させていく必要があると感じられます。既存の教育の方法等は大きく様変わりしていく中で、教育人員だけでは追いつかない点もあると考えられ、民間によるサポートなども含め、多くの選択肢があるように対応を行っていくべきかと思われま</p>	<p>児童生徒が自分に合った多様な学びの場で社会的な自立を目指すという考えの下、学校以外の居場所としての相談指導教室の充実やフリースクールとの連携等の取組を進めています。</p> <p>引き続き、オンラインを活用した不登校児童生徒への学習支援等、一人ひとりに寄り添った効果的な支援に努めてまいります。</p>	イ
40	<p>小中学校の給食について、中学生を全員が給食を食べられるようにしてください。</p>	<p>・学校給食推進事業（P24）</p>	ア
41	<p>小学生の給食を無料にしてください。</p>	<p>子育て世代への支援は、大変重要なことだと認識しておりますが、学校給食費の無償化を継続して行っていくことは、本市の財政に与える影響が大きいため、引き続き、他の指定都市と連携し、国に対し、制度の創設及び財政措置について要望してまいります。</p>	イ

4 2	産後うつ予防や新生児への虐待予防等を図るための産前からの妊婦及びその家族への指導、支援の充実を図る（バースドゥーラの導入など産前から産後通して寄り添うケアが必要）。	産後うつ予防等の対策の一つとして、出産後間もない産婦等を対象とし、母親の身体的回復と心理的な安定を促進するとともに、母親自身のセルフケア能力を育み、母子とその家族が健やかな育児ができるよう、産後ケア事業を実施しております。令和6年4月から対象者の拡充や利用者負担額の軽減等を行い、支援の充実を図っていきます。	イ
4 3	地域子育て支援拠点事業や障害のある子どもに対する相談や療育支援の場をより身近にする。異年齢交流やインクルーシブ教育の促進のため、拠点を学校の空き教室等利用してはどうか。	<p>インクルーシブ教育システムの構築のために、既に市立学校に支援級である情緒級、知的級を必要に応じて開設し、肢体級等を拠点校として整備しています。</p> <p>同様に、通級指導教室の各区への拠点校設置も行っており、巡回方式を含めた、今後の拡充を検討しているところです。</p> <p>また空き教室等の利用につきましては、関係各課とともに検討を進めているところです。</p>	イ
4 4	ニーズに合った支援のためにより詳細把握してほしい。人材の確保、拠点の増設のためにニーズの把握（どんなエリアにどれだけ必要か）。障害のある子ども及び親のインクルーシブ教育に関するニーズの把握（支援級、普通級に通いたい、通わせたい。分け隔てなく支援級をなくしたいなど）	<p>支援を必要とする子どもが制約や困難を改善・克服するために、保護者の意向や将来の希望などを把握しながら、学校等で支援を行っているところです。</p> <p>引き続き、就学相談の充実等により、ニーズ把握に努めてまいります。</p>	イ
4 5	地域学校協働の為にもっと学校を地域に開いて欲しい。地域で子育てを支援する環境を整えるために子育て支援拠点の充実が必要であり、小学校区ごとでの取組ができるよう学校の開放を許可してほしい（子ども食堂や無料学習塾の場、フリースクール、放課後デイサービス、学童など）。	学校の開放につきましては、安全対策や施設の施設等の面で課題を解決する必要がありますが、引き続き検討を進めてまいります。	イ

46	<p>安心して生活できる環境づくりの為に社会的療育の在り方を考える。親子を引き離すことが本当に必要か、親子の関係性ごと見守れる場や、本当に必要であればレスパイト施設の充実を図る。</p>	<p>令和4年改正児童福祉法において、児童等に対する家庭及び養育環境の支援を強化し、児童の権利の擁護が図られた児童福祉施策を推進するため改正が図られ、これを受け次期都道府県社会的養育推進計画策定の見直しが予定されており、今後の参考とさせていただきます。</p>	イ
47	<p>本当の不登校対策のために当事者たちの声を聞いて欲しい。当事者の求める場づくりの為に支援、不登校児の居場所づくり、抱える家族の相談窓口の充実を図る。</p>	<p>不登校児童生徒の実態に配慮した教育機会を確保するため、青少年教育カウンセラーやスクールソーシャルワーカーの増員による相談支援体制の充実、相談指導教室の機能拡充や校内登校支援教室のモデル実施等に学校内外の居場所づくりに取り組んでいるところです。</p> <p>また、相談窓口につきましては、オンラインによる相談や相談時間等の検討を進めてまいります。</p>	イ
48	<p>農業の有機化促進の為に、有機野菜の導入に力を入れて欲しい。</p>	<p>農業者や関係事業者、地域が一体となって取り組む有機農業の仕組みづくりを目指し、相模原市有機農業実施計画に基づき、「オーガニックビレッジ」の取組を進めており、今後につきましても、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。</p>	イ
49	<p>中学校給食はそのままお弁当が良いという意見、温かいものを温かいままという意見を取り入れる為に、センター（箱もの）ありきではなく周辺小中学校での親子方式から初めてもいいのではないかと再検討を求める。</p>	<p>現在準備を進めている中学校給食の全員喫食につきましては、「相模原市学校給食あり方検討委員会」において、親子方式を含めた各方式についてご審議いただき、本市にふさわしい実施方式として、早期に実現可能なセンター方式を基本とする旨の答申をいただいたものです。</p>	イ
50	<p>生涯学習に公民館ではなく地域住民の多彩な講座も学校教育の講師として呼び出すなど、先生たちも児童とともに子どもたちが地域つながる機会の創出にもなる。</p>	<p>豊かな知識、経験等を有した地域人材を学校教育活動において活用し、創意工夫のある教育活動を充実させながら、地域住民とのつながりも深めているところです。</p>	イ

5 1	高齢化が進む中、認知症の理解は必須となる。地域全体で子どもの成長と高齢者を支えるために交流に力を入れて欲しい。地域の方の活力にもなるのではないか。芸術に触れる機会が子どもも高齢者もより刺激となる。	・福祉コミュニティ形成事業（P28） ・認知症総合対策事業（P30）	ア
-----	--	---------------------------------------	---

目指すまちの姿Ⅱ「笑顔で健やかに暮らせるまち」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
52	犬猫等の動物との共生を目指すために殺処分ゼロや保護犬猫を飼いやすい状態を促して欲しい。	・動物愛護管理事業（P44）	ア
53	生涯独身、子供なしの夫婦といった世帯が増えており、またそうした世帯でなくとも将来的にはおひとり様となる世帯が多数を占める。少子化が否応なく進むなか、独り身でも心豊かに安心して暮らせるよう、若いうちから繋がりを作れるまちづくり、イベント開催などを行なってほしい。	全国的に人口減少・少子高齢化が進む中においても、本市が多くの方々に選ばれるまちとなり、持続可能性を高めていくことを目的に、市総合計画に基づき引き続き具体的な取組を実施してまいります。	イ
54	子どもの学習支援や居場所支援はすでに活動している団体がたくさんあるので、その団体が活動を継続しやすいような場所の提供や補助などをするのがよいと思う。	・子育て支援事業（P20）	ア
55	障害児は医者に連れて行くのが大変で、家族も理解のある医者を探すのにとても苦労している。相模原は歯科医は障害者向けのリストなどがあり進んでいるようだが、それ以外の医療機関に関して同じような体制を整えていってほしい。	障害のある方に対応している医療機関のリストについては、今後、障害者団体や医療関係団体等と調整の上、その必要性や掲載内容を検討してまいります。	イ
56	65歳から医療費の窓口負担を1割負担にしてください。	国民健康保険については、被保険者の年齢構成や医療費水準が高いことなど構造的な問題を抱えており、本市においても国民健康保険財政は大変厳しい状況が続いていることから、一部負担金の割合の引下げを実施することは難しいものと考えています。 また、75歳以上の方が加入する後期高齢者医療制度については、所得により自己負担割合が1割となる場合があります。	イ



57	<p>誰一人取り残さないためにも、タクシーチケットの配布やバスの無料券等の配布による免許返納した人への交通手段の補助を検討してもらいたい。</p>	<p>敬老パスなどの導入は、多額の経費を要すると見込まれるほか、地域間の公平性の課題があり、実施は困難と判断しています。このため、地域主体の移動支援の取組を支援する「地域おでかけサポート推進事業」を実施するなど、地域の社会資源等を活用した高齢者等の移動手段の確保に取り組んでいます。</p>	イ
58	<p>福祉コミュニティ形成のために役割を明確化し必要なスタッフの配置を求める。地域の関係者の連携、協働とあるが民生委員、児童委員の負担軽減ともなる。包括的支援のために誰がどこまでの権限、責任があるのか、高齢、障害だけでなくヤングケアラーなど多様化する問題のそれぞれのスペシャリストの配置も必要となってくる。体制を整えて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉支援体制推進事業（P28）</li> <li>・福祉コミュニティ形成事業（P28）</li> </ul>	ア
59	<p>適切な人員配置のために、ボランティアが生活保護利用者、ニートなどの就労を求める人をマッチングしてほしい。介護、保育、教育は資格がなくても見守る目が必要であったり、農業の有機化を推進するにあたり人材不足である。これから進めていきたい事業との連携に力を入れて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市就職支援センターの分野横断的な支援（P13）</li> <li>・若年無業者への職場体験機会提供（P13）</li> </ul>	ア
60	<p>福祉コミュニティ形成のため相互理解に力を入れて欲しい。地域に住む人の特性を皆で知り、支え合える為にまず知り、交流の場も作っていく。分けられ支援されるままでは担い手も追いつかない。特別なスキルがなくても見守り合える地域を作っていく。困っていることを伝えられる顔見知りを増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉コミュニティ形成事業（P28）</li> </ul>	ア

6 1	<p>健康づくりの為に体を動かすことだけでなく、食育、コミュニケーションの場、内側からの健康と話したり笑ったりする場の充実も図りたい。マスク着用や引きこもるよりも笑顔でつながる美味しいものを食べるなど、免疫力アップに努めて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり推進事業（P33）</li> </ul>	ア
6 2	<p>医療機関への助成も必要かもしれないが、いざという時のためより日頃のケアを充実させて欲しい。本当に緊急の時はどういう時かの適切な指導、緊急にならない様日頃の相談、健康づくりをかかりつけ医ならぬ相談窓口や助産師さんと繋がり丁寧に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり推進事業（P33）</li> </ul>	ア
6 3	<p>平和実現のために平和意識の普及だけでなく戦争に駆り出されることのないよう、武力行使しないよう憲法（非常事態条項など）のあり方などについても学習、情報提供の機会を設けて欲しい。市を挙げて原発を稼働させないための節電も推進してほしい。SDGs推進都市、再エネ推しの相模原なら再エネ100%、原子力0%へ持っていきけると信じています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和思想普及啓発事業（P36）</li> <li>・脱炭素型まちづくり推進事業（P67）</li> </ul>	ア
6 4	<p>人権尊重のために新たに相模原市人権尊重のまちづくり条例も必要かもしれませんが、こどもの権利条例が制定されて何が変わったか、もっと何が必要か評価し推進してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権施策推進事業（P37）</li> </ul>	ア

65	健康ないきいきとしたまちづくりの為に精査してほしい。今までやってきたものの必要性を精査し、今必要なか必要なところに税金を使ってほしい。感染症を必要以上に恐れ、不安をまん延させるのではなく、心から元気になれる事業を進めて欲しい。	・健康づくり推進事業（P33）	ア
----	---	-----------------	---

目指すまちの姿Ⅲ「安全で安心な暮らしやすいまち」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
66	<p>住まいの近くには西門商店街があるが、閉店している店も多く、大通り沿い（桜並木沿い）も破損した箇所や錆びた箇所が目立っている。何となく陰の雰囲気を感じるし、実際不審者情報も多いエリアだと思う。行政も介入する事で、商店街の再建や大通り沿いに建つ建物の修理・整備などを行い、陽の雰囲気を感じられるエリアにしていきたい。実際、不審者と遭遇し、怖い思いをした子どもたちもいると聞く。子どもたちの安全を守る為にも、検討いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街振興支援事業（P59）</li> <li>・中心市街地活性化推進事業（P59）</li> </ul>	ア
67	<p>不審者が多いので、警察署を増やして欲しい。</p>	<p>引き続き、交番の新設等について、県警察に要望を行います。</p>	イ
68	<p>消費者を守るためにも、消費者の自立に向けた教育に力を入れて欲しい。かしこい消費者、エシカル消費の推進をお願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者保護啓発推進事業（P45）</li> </ul>	ア

目指すまちの姿Ⅳ「活力と交流が新たな価値や魅力を創造するまち」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
69	自治会への参加が難しい方もいるとは思いますが、自治会への参加をしっかりと促してみてもいいでしょうか。引っ越してきた人への学区や地域の活動の紹介とか。	自治会への加入促進については、市自治会連合会と連携し、様々な取り組みの支援を行っているところです。いただいたご意見を参考にさせていただきます。	イ
70	相模原駅周辺（特に返還された土地）が今後どのように開発されていくか、気になっている。住民を増やすためのマンション建設ではなく、地域の住民が楽しんだり、リラックスしたり、気軽に集えるようなエリアにしていきたい。例えば、図書館の建設やプールを含めたスポーツ施設を増やす等、地域住民の娯楽や健康、教育面に関する施設が増えると嬉しい。	「相模原駅周辺整備推進事業（P54）」では、相模総合補給廠一部返還地のまちづくりについて、現在、施設の配置や規模等を定める土地利用計画の策定に向けて検討を進めています。今後の計画策定に当たっては、市民の方や民間企業のご意見も伺いながら進めてまいります。	イ
71	とにかく開発を最優先に考えなくてはならない。域外からの投資を呼び込める最後のチャンスと考え、鉄道の強化についてより柔軟かつ多様な検討が必要ではないかと考える。例えば相模線の複線化、相模線は単線であるがゆえにそのポテンシャルを十分に発揮できているとはいえない。その一方で輸送力の逼迫がもし起こるのであれば増結の方が適している。将来的に県央からリニアへのアクセスで相模線を有効活用することを考えるのであれば複線化というよりは高速化がメインになるはずで、そのためには部分複線や信号システム改良で十分であり、これは実現しなくてはならないはずである。 また、小田急線延伸についても検討が十分ではない。相模原・上溝は1980年代以前の中心地であ	本市を含む東京圏の都市鉄道の整備は、国土交通省における交通政策審議会の答申に基づき進められており、平成28年の答申には、おおむね15年後を念頭に置いた「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」がまとめられ、現在は、この答申に基づき、整備・検討が進められています。本市では、答申において、意義ある路線の一つとして位置付けられた、小田急多摩線の延伸（唐木田～相模原～上溝）の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。また、相模線の複線化につきましても、輸送力増強や速達性向上等、輸送サービスの改善に向け、関係自治体等と連携を図りながら取組を進めてまいります。	イ

<p>り、現在の都市構造に対してこうした街を振興する意義がどれほどあるのか再考する必要があるのではないか。一方で相模原駅を中心として市内の交通網を再編したり、もしくは相模原駅前開発に強力な広域流動が必要であったりするのであればまた意義は変わってくる。他にも上溝ではなく橋本に延伸して、リニア駅よりも南側に駅を設置するのであれば、小田急沿線からリニアへのアクセスや橋本駅南側から都心へのアクセスに活用できる可能性もあり、地域振興と引き換えに鉄道会社からの関心が高まるかもしれない。大筋では問題とまでは感じていないが、延伸に前向きな不便な地域や愛川町の支援が得られるからと言って、本当に将来にわたって広域に必要とされる交通網を検討できているのか疑問。合併当初は相模原線の延伸を掲げたのに後になって見直された城山・津久井町民が不憫でならない。</p>		
--	--	--

72	<p>開発はよく考えてやって欲しいものです。</p> <p>まずは駅近の話です。縦長の建物は移動がしにくく、流行りません。ポーノ相模大野も子育てしたことない人が作ったのかな？と思うくらい使い勝手が悪かったですよね。ぜひ幼稚園に子供を入れて子育ていた女性をチームに何人か入れてください。ライフは自転車が停めにくいので、あんまり買い物しません。買い物カートどこおくの？自転車置き場や駐車場は大事なポイントです。コリドーの行く末も気になります。</p>	<p>ポーノ相模大野は、相模大野西側地区第一種市街地再開発事業において、施行者である市街地再開発組合により整備されました。この市街地再開発により、当該地区周辺の道路等の都市基盤、低未利用地や空きビル等に関する課題が解消され、大型商業施設や都市型住宅、駐車場、駐輪場等の都市機能の集積による、にぎわいの創出や既存の商業施設等との回遊性の向上が図られました。また、コリドー街は、相模大野駅から相模大野中央公園へつながる重要な歩行者動線の一部であり、本市の南の玄関口にふさわしい魅力ある市街地形成に寄与しています。</p> <p>今後は、これら多様な都市機能や既存の都市基盤の更なる活用を図るとともに、地域の皆様と連携した取組を通じ、まちの持続的な発展に取り組んでまいります。</p>	イ
73	<p>相模原市は道が混む。そこをどうにかしないと駅から微妙に離れた大型施設は難しい。</p>	<p>・道路改良事業（P52）</p>	ア

74	<p>この前やってたアニメとのコラボは Twitter で見ていて、成功していると思いました。中の人達の努力の賜物ですね。</p> <p>我が家は服は海老名のららぽーとか町田に。食品は大和の ave に買いに行くことが多いです。衣食住の衣食が他の市に頼ってるのです。</p> <p>駅から遠いところは市外からでも遊びに行きたいと思う場所にして欲しいです。ちなみに私は今浜松のぬくもりの森と春華堂本社に遊びに行きたいと思ってます。面白い街並みがあると、そこでご飯やデザートを食べたいと思います。さらにまあまあ近くに長い滑り台のある遊具いっぱい公園や面白いスポットがあれば足を伸ばします。そこでまたお金を落とします。駅から遠いところはそういうのがポイントになってくると思ってます。グランベリーパーク のように1日居られるようなところも良いですね。</p>	<p>市総合計画推進プログラムにおいて、本市の個性を生かす分野として「子育て」「教育」「まちづくり」を新たに位置付け取り組むこととしています。</p> <p>全国的に人口減少・少子高齢化が進む中においても、本市が多くの方に選ばれるまちとなるよう、具体的な取組の検討に際し参考とさせていただきます。</p>	イ
75	<p>まちに活力を産み出すには、障がい者、外国人といった多様性とそのエネルギーとなる面がある。イギリスなどはそうした多様性故に活力が生まれ、厳しい国際社会のなか勝ち残りつつある。思い遣り、他者への配慮といった日本の良さは維持しつつ、外国人、障がい者といったマイノリティーが活躍できる街づくりを進めることが、この街の力になると考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会推進事業（P32）</li> <li>・国際交流事業（P36）</li> <li>・人権施策推進事業（P37）</li> </ul>	ア



76	<p>リニアがある政令指定都市として、相模原、橋本の北口南口をさらなる大型商業地区として都市化、八王子立川のように、商業エリアを何倍も広く街を形成すべきだと考える。</p>	<p>・橋本駅周辺整備推進事業（P54）</p> <p>※下線部</p> <p>「相模原駅周辺整備推進事業（P54）」では、相模総合補給廠一部返還地のまちづくりについて、現在、施設の配置や規模等を定める土地利用計画の策定に向けて検討を進めています。今後の計画策定に当たっては、市民の方や民間企業のご意見も伺いながら進めてまいります。</p>	ア
77	<p>素晴らしい自然は津久井地域で整備し、リニアや圏央道がある町らしく、交通量も増えるはずなので、田名から大島、城山まで、畑ばかりなので調整区域を全解除し、駅、電車の召致や、多摩ニュータウン通りや甲州街道、16号、129号線などのような賑わいになることをとてもとても長く今も夢見ています。</p>	<p>人口減少や超高齢化の進行、市街地の拡散・低密度化などが全国的に課題となっている中、住民生活を支える施設のサービス提供や地域活力の維持が困難になるおそれがあることから、持続可能な都市への転換が必要とされています。そのため、水源地域等の自然的な土地利用は維持しつつ、市街地において、都市機能や居住の適切な誘導を図り、利便性が高くにぎわいのあるまちを目指してまいります。</p>	イ
78	<p>相模原駅の北口には、市役所を建てるのが良いと考える。利便性を高めてもらいたい。</p>	<p>「相模原駅周辺整備推進事業（P54）」では、相模総合補給廠一部返還地のまちづくりについて、現在、施設の配置や規模等を定める土地利用計画の策定に向けて検討を進めています。今後の計画策定に当たっては、市民の方や民間企業のご意見も伺いながら進めてまいります。</p>	イ
79	<p>国道16号の渋滞緩和と町田街道との連結が必要。</p>	<p>国道16号の渋滞対策については、管理者である国に対して要望しています。町田街道との連結については、基幹事業「都市計画道路等整備事業」において推進しているところです。</p>	イ

80	<p>橋本、相模原、淵野辺、相模大野のまちづくりをすることは良いが、まとまりがないように思われる。町田、八王子のように一点に集中したまちづくりでも良いのでは無いか。</p>	<p>20年後の相模原市の将来像を展望し、その実現に向けた基本的な指針を示す、「相模原市都市計画マスタープラン」において、各駅周辺の役割を拠点ごとに位置づけており、橋本、相模原及び相模大野の「中心市街地」は、商業・業務、居住、行政などの高次都市機能の維持・誘導を図り、市内外の多くの人が集い賑わいのある拠点を目指しています。</p> <p>また、淵野辺駅や上溝駅などの「地域拠点」は、利便性の高い日常生活を営むための商業・サービスなどの都市機能を維持・誘導し、地域と一体となった拠点を目指しています。</p> <p>各拠点の役割に応じた都市機能の集積を図りながら、今後の人口減少や超高齢化への進行を踏まえた『社会情勢等の変化に柔軟に適応した集約連携型のまち』を目指してまいります。</p>	イ
81	<p>スポーツ振興のため、テニスコートなど活動の場を増やしてほしい。</p>	<p>既存施設の利用状況をみながら今後の参考といたします。</p>	イ
82	<p>旧藤野町時代から、藤野地区で展開されているアートメッセージ事業などは、シュタイナー学園の誘致による約500名の移住者の成果を含めた藤野地域への移住促進や、文化芸術事業に非常に多くの成果を生み出しています。予算は減少傾向にありますが、インバウンドに向けた観光資源の発掘や、アート思考等、産業への応用において、アートの重要性は21世紀にはさらに高まっていくと考えられます。成果の分析を改めて行うとともに、予算の拡充や、他地域への展開等を検討してみても良いのではないのでしょうか。</p>	<p>・文化芸術発表・交流活動支援事業（P64）</p>	ア
83	<p>テニスコートをもっと増やしてください。</p>	<p>既存施設の利用状況をみながら今後の参考といたします。</p>	イ

84	豊かなまちづくりのためにも、相模原補給廠の返還に一層取り組んでもらいたい。	・基地対策事業（P62）	ア
85	市内を東西に結ぶ道路がいずれも貧弱なのに加えて、町田市から厚木市、愛川町に直接抜けられる道が少ないため渋滞が慢性化しているように見受けられます。そのため 52 号線などの拡幅もご検討お願い致します。	・都市計画道路等整備事業（P51）	ア
86	ミリオンライブとのコラボ楽しかったので第 2 弾もお待ちしています。	アンケートでは 34 都道府県から多くの皆様に来訪いただき、市内を周遊していただきました。 今後も、本市に関係するコンテンツとの効果的なコラボ企画の実施により、関係人口、交流人口を増やし、移住・定住の促進やシビックプライドの醸成などに取り組んでまいります。	イ
87	駅周辺の駐輪場が少なく、違法駐輪が短時間利用なら無料で使える駐輪場を増やしてほしい。	自転車駐輪場は、市全体としては充足している状態と考えていますが、一部の地域では利用率が特に高くなっていることから、今後、利用状況等を見ながら対応について検討してまいります。	イ
88	市街化地域でも場所によってバス便が少ないので、中山間地同様にバス会社に資金援助をする。	本市では、交通不便地域等における高齢者などの移動制約者の生活交通手段を確保するため、路線バス等を補完する乗合タクシー等を運行しています。市街化地域も含め、引き続き、地域の実情に応じた移動手段の確保に向け取り組んでまいります。	イ
89	リニア中央新幹線の神奈川県駅停車本数などは未定と聞かすが、東海道新幹線の新横浜駅のように、駅周辺を魅力のあるまちづくりをすることで停車本数を増やすことが出来ると思う。「魅力的なまち」とは、バブル時代のような画一的な街並みではなく、相模原市らしい美しいやまなみ・緑を活かしたまちづくりのこと。	・橋本駅周辺整備推進事業（P54）	ア

90	<p>ターミナル駅周辺のライフライン、変電所の地下化を進めてほしい。</p>	—	ウ
91	<p>近年では、自治体では珍しい人気声優や、「アイドルマスター ミリオンライブ！」とのコラボによりシティプロモーションを積極的に行っていますが、市の知名度をさらに上げるためには、全国から万単位の客を呼び込めるイベントの開催が必要不可欠と考えます。その一例が、毎年春に開催されているももいろクローバーZ(以下:ももクロ)のライブ「ももクロ春の一大事 ～笑顔のチカラ つなげるオモイ～」を相模原市に誘致することです。ももクロ春の一大事は、2017年より全国各地で開催されているライブであり、同年に埼玉県富士見市で開催した初回では、田畑の真ん中にある公園で開催したにもかかわらず、2日間で4万人を超える観客が来場しました。その後も万単位での来場を記録しており、今年も福山市で開催されました。開催地は毎年公募で決定され、自治体側がライブ会場となる場所の無償提供や当日の安全な開催への協力などをする代わりに、ももクロ側は出演料やステージ制作・運営の経費を要求しないなど、大型ライブを開催した経験の無い自治体でも手を上げやすい条件となっています。自治体を単にビジネスの相手と見るのではなく、お互いに協力し合うことで、地域の住民もライブに参加するファンも“笑顔になる”催しを目指すものです。また、開催に伴う経済効果も数億円単位とされており、全国</p>	<p>市に関係する様々なコンテンツとの効果的なコラボ企画を実施しており、今後も、関係人口、交流人口を増やし、移住・定住の促進やシビックプライドの醸成などに取り組んでまいります。</p>	イ

に市の魅力発信するとともに、経済の活性化も期待できると考えております。以上の理由から、ももクロ春の一大事を相模原市でぜひとも開催していただきたいです。イベントの方針として、「観光スポットやご当地グルメ、特産品のお土産の紹介、ご当地キャラクターとのコラボ」を掲げていることから、市のマスコット「さがみん」と「ももクロ」メンバーとのコラボや、「はやぶさ 2」「さがみはらスイーツ」「ご当地グルメ」の PR や会場へのブース出展などをしてみるのもいいと思います。また、ミリオンライブの時と同じように、市内の企業がコラボグッズも作っていただきたいです。ももクロのファン(通称:モノノフ)は全国に数多くいるので、ミリオンライブよりも桁違いに多いです。そのため、会場に行った人はもちろん、行かなかった人も電子媒体を介して、相模原の魅力を知ってもらい、ファンを増やす大きなチャンスと考えます。会場は、ギオンスタジアムや、相模補給廠一部返還地、相模大野グリーンホールなど、アクセスしやすく、多くの人が収容できる場所がいいと思います。ただ、複数自治体がエントリーした場合は選考があるため、必ずしも開催できるとは限りませんが、積極的なツイッター等の活用や[Alexandros]のライブ開催実績があることを鑑みると有利であると考えます。

92	<p>これ以上農地や緑が縮小しない様、開発に制限を設けて欲しい。オーガニックビレッジを推進してほしい。空き家対策に力を入れて欲しい。</p>	<p>無秩序な開発の抑制を基本としつつ、良好な都市環境の形成を図るため、生産緑地地区制度などを活用し、その維持に努めています。</p>	イ
93	<p>子育て世帯ですが中古住宅購入やリノベーションに補助があると知りませんでした。子育て世代に限らず空き家活用を促して欲しい。</p>	<p>「子育て世帯等中古住宅購入・改修費補助事業」は、子育て世帯や若年世帯の定住・移住の促進及び中古住宅の流通促進を図ることを目的に実施しているものです。今後は、空き家活用を含めた空き家対策に取り組んでまいります。</p>	イ
94	<p>働きやすい環境実現のためにワークライフバランスの推進に取り組む企業を表彰するだけでなく、その働きやすさの声を広報したり、成功事例を示すなど、他企業も取り入れやすいよう紹介、システム導入支援を促して欲しい。</p>	<p>・仕事と家庭両立支援事業（P58）</p>	ア
95	<p>オーガニックビレッジ実現、有機農法推進のため有機農業への支援を厚くして欲しい。生活の保障をつけるなどして、就農による生活不安軽減（助成金等や住宅補助）、市内消費の拡大、市内での循環に力を入れて欲しい。オーガニック（農業だけでなく流通なども含め）地球にやさしい相模原、エコシティを目指せるのではないか。</p>	<p>農業者や関係事業者、地域が一体となって取り組む有機農業の仕組みづくりを目指し、相模原市有機農業実施計画に基づき、「オーガニックビレッジ」の取組を進めており、今後につきましても、いただいたご意見を参考に取組を進めてまいります。</p>	イ

目指すまちの姿Ⅴ「人と自然が共生するまち」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
96	SDGs 目標をもっと知ってもらいように働きかけてほしい。身近なところから、市と企業、市民が手を取り合えるようにしてほしい。	・誰一人取り残さない社会の実現に向けて (P17)	ア
97	市役所前の桜通りを、よりきれいに、より美しいスポットにできたらと思う。桜は毎年キレイだが、その桜が咲いている通りの美化環境は、必ずしも良いとは言えない。ゴミの捨て方、犬のフンの始末、嘔吐物の放置、狭すぎる歩道（上溝側）、壊れそうな建物等、しっかり管理・整備すれば、相模原を代表する通りになると思う。	・4R 推進事業 (P69) ・きれいなまちづくり推進事業 (P70)	ア
98	田名地区に公園を整備してもらいたい。新築の住居が増えていくが公園が少ないと感じている。	公園をはじめとするオープンスペースは市民の憩いの場などとして大切なものであると考えており、公園の配置状況や人口などの地域の実情を勘案し、計画的な公園配置に努めているところです。 当該地区につきましては、具体的な公園整備計画はなく、また、用地の確保等の課題がありますことから、現状では新たに公園を整備することは困難でございますが、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。	イ
99	脱炭素推進のためライフスタイルの提案に力を入れて欲しい。輸入に頼らない、地産地消を意識するなど、生活の中で無理なくできる形、取り入れやすいものを新たな常識となるよう促す。	・脱炭素型まちづくり推進事業 (P67)	ア
100	コンポストで肥料を作っても使う所とマッチングするなど巡るようシステム化が必要。	たい肥化した肥料の活用等につきましては、今後、調査・研究を進めてまいります。	イ

101	<p>環境を守るために環境活動に取り組む担い手を育む。小学生の頃から体験授業などもあると良い。また、就労を求める人のマッチング先にも担い手育成を就労支援として促していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援・職業紹介事業（P58）</li> <li>・環境を守る担い手の育成事業（P68）</li> </ul>	ア
102	<p>アップサイクル、リサイクル活性化の為に原料となる廃棄物を出す側にも意識をしてもらう。原料の無償提供（廃棄処理費軽減）などのマッチング促進に力を入れて欲しい。たい肥化→農地で利用のシステムも推進してほしい。（学校給食分は学校で処理など、助成を行う。</p>	<p>たい肥化した肥料の活用等につきましては、今後、調査・研究を進めてまいります。</p>	イ
103	<p>きれいなまちづくりの為に美化の日常化に力を入れて欲しい。学校でも月1回近隣のゴミ拾いの日（クラスごと）を作れば3クラス×6学年とすると毎日学校のある日はどこかのクラスがゴミ拾いに出る事になり、近隣の方との交流（あいさつ）の場となるのではないか。もちろん職場でも導入できるのではないか。（明らかに大人のゴミが多い、タバコ、酒）ゴミ拾いが大変だとわかれば、ポイ捨てもやめようと思うはず。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4R推進事業（P69）</li> <li>・きれいなまちづくり推進事業（P70）</li> </ul>	ア
104	<p>地産地消、使えるものは最後まで、リサイクルを当たり前原料も相模原産のものを推奨していく。</p>	<p>資源のリサイクルは、ごみの減量化、資源化を目的に、各施策に事業を位置付けています。いただいた意見が今後の参考とさせていただきます。</p>	イ
105	<p>バイオマスボイラーを有効導入、資源とのバランスをうまくとっていく。市のやっている政策を民間とも繋がりアピールしていく。（協働事業に参入しやすくする）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマスボイラー導入事業（P15）</li> </ul>	ア



106	<p>生物多様性のために都市緑化推進してほしい。生物多様性を森林や川にお任せにせず、都市部の緑も生物を守る意識を啓発。<u>レクリエーションパークの人工芝はマイクロプラ問題にもつながるので、天然にしてください。</u>農地、田んぼ、プレイパークを増やし自然あふれる街へ。</p>	<p>・生物多様性さがみはら戦略推進事業（P73） ・都市緑化推進事業（P76）</p> <p>※下線部 相模原スポーツ・レクリエーションパークにおいて、人工芝は天候や維持管理に左右されず、年間を通じて安定的に市民へ利用を供することができることから採用しました。そのため、天然芝への変更は考えておりませんが、マイクロプラスチック流出対策については対策を検討してまいります。</p>	ア
-----	---	--	---

目指すまちの姿Ⅵ「多様な主体との連携・協働により持続的に発展するまち」についてのご意見

通番	意見の趣旨	「該当する取組」もしくは「市の考え方」	区分
107	<p>デジタル化を進めることは、省力化の観点から重要であるが、一方で、AI や入力フォームではすくいきれない市民ニーズがある。また、市の現場の声を国に届けてほしい。</p> <p>マイナンバーによる引越しワンストップサービス、保険証のマイナカード一元化などは、自治体行政や民間事業者の省力化・コスト減に貢献しているのか疑問である。DX を進めるなら国と一体となり、市の、この街の現場の声を反映して合理的に進めてほしい。</p> <p>AI や DX の限界、デメリットにも目を逸らさず、人による接遇、対面による市民サービスの良さも、確実に、次世代に残して欲しい。</p>	<p>行政サービスにおけるデジタル化は、国が示す「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」を踏まえ、各地方公共団体において取組みを進めています。</p> <p>当該取組みについては、ご指摘のとおり、行政事務の効率化も目的の一つですが、デジタル技術を活用することによる、行政サービスの利便性向上を図ることも、重要な目的となっています。</p> <p>こうしたことから、ご指摘にありましたとおり、市民の皆様の声に耳を傾けながら、「職員(人間)がやるべきこと」と「デジタルで行うべきもの」を見極めるとともに、各デジタル技術が抱えるリスク等についても十分に議論を行い、必要に応じて国とも意見交換を行いながら、施策を検討してまいります。</p>	イ
108	<p>市営斎場を早く整備して欲しい。</p>	<p>・(仮称)新斎場整備事業(P44)</p>	ア
109	<p>行政サービスだけでは補うことが難しい、狭間にある社会課題を解決するため、地域団体や市民団体に積極的に加わってもらうことが重要だと感じる。しかし持続可能な団体運営のノウハウが十分ではないため、想いはあっても事業として成り立たせることが難しいと感じる。そこで緑区にある森らぼのような、地域活動支援から起業支援まで行い、お互いの交流が生まれるような形態の施設を他の区でも取り入れられるとよい。</p>	<p>市とNPO法人が協働で運営し、市民活動を総合的にサポートする、「さがみはら市民活動サポートセンター」では、これから市民活動を行うことを考えている方へ向けて各種講座をご用意しています。NPO法人の立ち上げ方から労務・会計・事業報告書の書き方など、普段の活動で必要になる知識の習得をサポートできるものです。また、各区でのNPO・市民活動の個別相談の実施も行っており、団体ごとの困りごとの相談場所を設置しております。そのため、各区に施設を設置することを現段階では考えておりませんが、今後の参考とさせていただきます。</p>	イ

110	<p>市民協働推進事業は、市民の声を市政に反映させる非常に先駆的な取り組みかと思われます。市民協働推進事業課の皆様には大変お世話になり、個人としても参加している団体で採択を受け効果的に協働させていただいたと思います。実際には認知度が低いためか募集数が少なかったり、また当初のプレゼンの際に担当部局からすると仕事が増えるということのためか、あまり前向きな態度で対応いただけない部署の方がいるケースなどもあり、理念に対しての仕組みの改善は必要な事業ではないかと感じています。意味のある市民協働であれば、1人月は無理でも該当課0.5人月増員をいただく等も含めて、市民協働推進が本当の意味で実現でき、徐々に市政に反映されるような制度となれば、世界的にみても評価される取り組みではないかと思っています。Decidim(デシディム)という、参加型のプラットフォームはバルセロナや、兵庫県加古川市や東京都渋谷区でも利用が始まっています。是非、デジタルツールも活用して、まちづくりの意見反映を進めただけたらと思っています。</p> <p>参考リンク：  <a href="https://suumo.jp/journal/2022/03/02/185463/">https://suumo.jp/journal/2022/03/02/185463/</a></p>	<p>他都市の事例をご紹介いただきありがとうございます。協働事業提案制度のことかと思われますが、ご指摘のとおり、認知度の低さは承知しており、各種新しい周知方法について取り組んでいるところでございます。</p> <p>市民がまちを良くしようという気持ちを市政に反映できる仕組みを今後も検討してまいります。</p>	イ
-----	--	---	---